

活動報告

団体名	シャンティ国際ボランティア会
活動名	水害で被災した子どものためのあそびを通じた心のケアプロジェクト
活動期間	2022/09/10～2022/11/30
活動の成果	<p>【活動 A】 あそびを通じた心のケアプロジェクト</p> <p>1) 子どものケアプロジェクト</p> <p>外あそびを通して被災した子どものストレスケアに努めた。被災前の子どもの様子を知るふくちゃ部からは被災後に気性が荒くなった子どもも少なくないという。活動を行う中でも一つのアそびに必要以上に固執している様子や激しい行動を起こしストレスが溜まっている様子が当初は見て取れた。親からは被災後の引越しや家屋の修復による床をはがしたままの家での生活で子どもの遊ぶ機会は減っているという話もあった。</p> <p>プレーワーカーが中心となり仕掛けを行う外あそびを通して泥遊びや水遊び、木工など多くの体を使った遊びを展開した。親からも田舎暮らしにあこがれて新潟県村上市に引っ越したが自然の中であそびをさせてあげる機会があまりなかったとの声があった。その中であそび場は泥遊び、五右衛門風呂等子どもにとって初めての経験を提供する場となった。</p> <p>結果として現在もあそび場はひと月に 1 回と頻度は減らしているものの活動を継続できる体制が整った。</p> <p>2) 子どもに関わるボランティア・親への学習会</p> <p>村上市では元来、民間での子ども支援の取り組みが盛んで幅広い子どもに関わる研修会・講習会がふくちゃ部や村上 ohana ネットを中心に行われてきた。あそび場に関わることにより、冒険あそび場、プレーパークの取り組みを通して被災後の子どもとのかかわりを伝えることができた。平時の研修会・講習会の中でも防災やあそび場、子どもの多様性など関心の声があった。現在は対象者やテーマ、時期を実施に向けて調整しているところではあるが今回の活動を通して子どものあそび場に対する意識の変化は大きな成果と言えるだろう。</p> <p>【活動 B】 蔵書及び教材提供</p> <p>あらかわ保育園から分散保育を受け入れた保育園では子どもの人数増加によって備品が足りない状況であった。今回</p> <p>寄贈したおさんぽカー(避難車)は主に長時間歩くのが難しい低学年の園児が散歩を行う際に使用する備品である。水害の被害でおさんぽカーが足りなくなったことで子どもたちの外出の機会は減ってしまっていたが支援を通して従来通りの散歩を再開することができた。</p>

寄付者への
メッセージ

全国の皆様から頂いた温かいご寄付から助成を頂き、誠にありがとうございます。
ウクライナ情勢や頻発する災害の影響で被災地の状況は隠れてしまっています。
コロナ禍で県外からのボランティア活動も自粛を余儀なくされている被災地も少なくありません。
当会としては被災地域で活動を行う地元の人と共に寄り添いながら支援活動を続けてまいります。
今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

(活動のようす)

